

広島で開催のG8議長サミット記念品に採用

備後撚糸の「水撚り和紙」

和紙糸生地でメモ帳ケース

編織糸製造業の備後撚糸(株) (福山市芦田町福田647、光成猛社長、電084・958・3355)の特許製品「水撚(よ)り和紙」で織った生地が、9月2日(火)、広島市内で開かれる「G8下院議長会議」(議長サミット)で、ホストの河野洋平衆院議長から各国議長らに贈られる特製メモ帳ケースに採用された。写真。

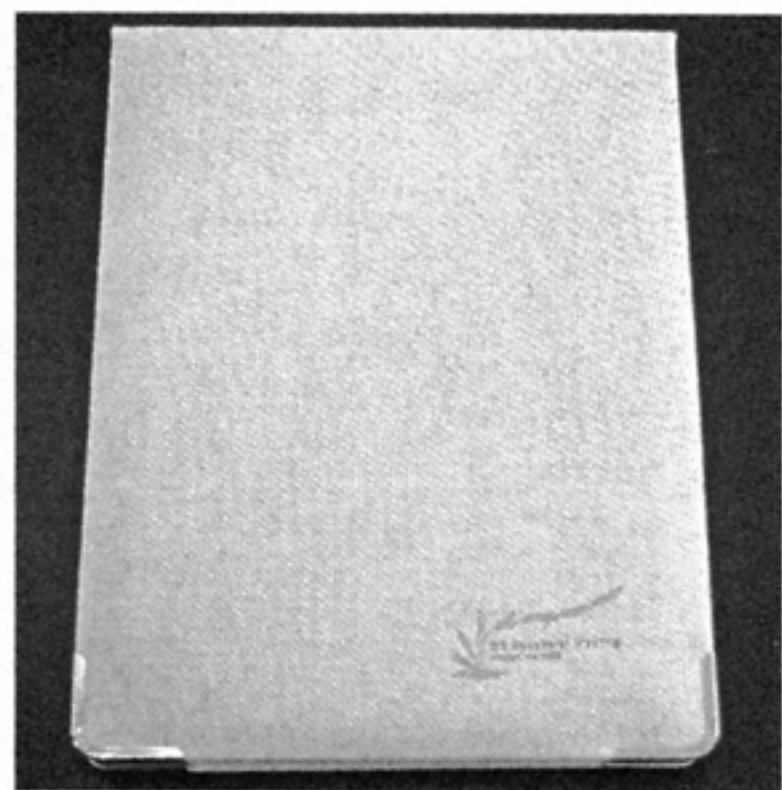
ケースはB5判収納サイズで、全面に和紙糸で織った帆布を張り、表にサミットのロゴマークが金色で箔押しされている。

製作したのは、パッケージメーカーの(株)鯨岡(東京都)。

同社の鯨岡亘社長は、国際軍縮促進議員連盟会長として世界平和を訴え続けた故鯨岡兵輔・元衆院副議長の長男という関係で、河野議

長が平和都市ヒロシマ開催を記念して製作を依頼した。

備後撚糸へは今年5月上旬、鯨岡の鯨岡揺・デザイン室長から問合せがあり、和紙糸を使ったデニムや備後緋、帆布など5点を見本提示。試作を重ねた結果、和紙100%で生成りの帆布が採用された。



鯨岡社長は「開催地に因んで広島産の生地にごこだわった。備後撚糸さんが繊維業の変遷の中で、生き残りをかけて独自技術の開発をされているのは、戦災から復興を遂げたヒロシマの姿と重なる。和紙糸という天然素材も環境に優しい」と選んだ理由を語った。

同社にとっては初の素材の

ため、鯨岡社長は「ミシン縫いの難しさ、曲げ部分の仕上げなど試作の連続だったが、素晴らしいものが出来た。各国のみなさんが、このケースを見るたびにヒロシマを思い出し、平和への思いを強くしてくれれば」と話している。

備後撚糸の光成明浩営業部長は、「思いがけないことで、光栄の至りです。サミット開催地の広島県の企業として、平和アピールへの参加ができて嬉しい。和紙糸はジーンズやバッグで着々と拡がりを見せているので、これを機に積極的な展開を図ります」と喜びを語った。